

A E D設置に伴う救急法の社員教育継続システムづくり活動

ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・A E D社内設置 ・救命講習 ・インストラクター育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続システム ・社員教育 ・
1～4・15・16			
改善・取組みの背景と課題	<p>A E D設置は公共施設、イベント会場と社会的にも普及しつつある。このような社会背景からも社内敷地全域にA E Dを設置し、緊急時（突然死）に対する除細動が出来る環境を整えることが必要となる。当製作所も4000人規模の事業所として、また、3交替夜勤勤務も行ない、サッカー場・二輪テストコースを所有する立場から、心臓突然死の対応としてA E Dを配備し、除細動を行なえる環境づくりが重要視されていた。それに伴いA E Dを使った救命講習を全従業員に教えることが条件となり、教育の推進展開とその後のしくみとして軌道にのせることを目指し活動する。先ずA E D機器導入の予算取りをする為、安全衛生委員会にて展開計画を説明し、推進の承認を得る。TOPの指示により産業医と共に設置場所及び教育の体制を検討し毎月の安全衛生委員会で報告し、より精度を上げた活動に移す。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p style="text-align: center;">＜教育体系の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A E D設置の3ヶ月前より教育方法と優先順位を企画検討する。 ・産業医にアドバイスを受けながら問題点を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ①講習の受講は、法的には義務付けられていない。 ②講習を受けていない従業員は、A E Dの使用をためらうと思われる。 ③消防（関連団体）などが救命講習を行なっている。 ④安全管理者・衛生推進者が講習を受講し、一般従業員へ教育する。 <p>上記事項を考慮して教育優先順位を4ステップに分けた体制で推進する。 (A E D導入前にステップ1、2の完了、導入後はステップ3、4と展開)</p>		
改善・取組みの概要	<p style="text-align: center;">＜教育優先順位＞</p> <p>第1ステップ（安全管理者・衛生推進者・当直課長） 第2ステップ（夜勤監督者・交替制チーフ・休日工事指導員） 第3ステップ（係長クラス・班長・班長代行・チーフ） 第4ステップ（部門インストラクター） 第5ステップ（一般従業員）</p> <p style="text-align: center;">＜社内インストラクター育成用カリキュラムの作成＞</p> <p>第4ステップにて各工場・室・部よりインストラクターを選出し2時間教育を始める。講師による教育のバラツキがない様、映像（DVD）を取入れながら実施する。更にインストラクターとなる者は消防署の普通救命講習（4時間コース）を受講する事を条件とした。</p>		

<p>写真・図表・イラスト</p>				
<p>効果</p>	<p>＜一般従業員への教育とローテーションの確立＞</p> <p>講習時間の設定では現業区の勤務に合わせ、1勤は2時間の残業、平常勤では1時間の残業となり業務に極力負担をかけることなく講習会を進める事が出来た。また、各工場・室・部と講習会の曜日を決め実施することで、ローテーション化が定着する。社内インストラクターが人に教える事により、個々の自信となり地域自治会でも防災訓練時、積極的に指導が出来る人材づくりにも貢献する。</p>			
<p>このGPSから学ぶためのヒント</p>	<p>最初の段階では部門インストラクターの業務負荷増により不満もあったが、実際指導にあたりと自分自身も覚えようとする自覚に目覚め、その成果が大きな自信となる。教える側が理解をしないと人の指導など出来ない事を誰もが感じ出した。現在は全従業員とお取引先様も対象として教育活動を進めており、定期的な講習開催とインストラクターのローテーション体制が構築された。今後更に部門インストラクターを増やし、自らの居住区でも積極的に指導が出来る人材づくりを進めて行く。また、従業員全員が2時間講習を一巡した後は消防署の救命講習を受けてもらい更にスキルアップを目指す。消防署の講習についても2～3年に一度受講すると事を前提に現在推進中である。（受講リストを整理しタイミングを見て各部門に発進）</p>			
<p>参考資料</p>	<p>教育用DVD（参考） タイトル：AEDを使用した救命処置（サブタイトル：私たちの行動で救える命があります） 製作者：NIHON KOHDEN（日本光電） 監修：兵庫医科大学救急・災害医学教授 丸川征四郎 発売元：日本光電</p>			
<p>投稿者</p>	<p>飯倉 克彦</p>	<p>e-mail</p>	<p>Katsuhiko_Iikura@hm.honda.co.jp</p>	<p>2009年12月14日</p>